日本ユニシス株式会社

2018 年 3 月期　第 3 四半期　決算説明会　（2018 年 2 月 1 日開催）

主な質疑応答　（ご理解いただきやすいよう表現を変更している箇所があります。）

【質問者 A】

Q：18/3 期通期見通しについて、売上総利益の見通しを▲5 億円引き下げた理由を教えてほしい。

A：上期決算時点では、金融機関向けオープン勘定系システム「BankVision®」の新規獲得を通期見通しに織り込んでいたが、現時点では今期中の獲得が見込まれないことを勘案した。一方で、上期決算時に見込んでいた不採算案件発生リスク 5 億円を見通しから外した。これらの影響額を反映し、売上総利益見通しを▲5 億円引き下げている。

Q：BankVision のセールス状況を確認したい。来期獲得に向けて順調なのか、地方銀行の現状の投資環境からするとしばらく獲得は見込めそうもないのか、見方を教えてほしい。

A：従来同様、複数のお客様と継続的に交渉を続けており、各行とそれなりの可能性を持って話が進展してはいるが、現時点ではそれがすぐに契約に至るような状況ではないと考えている。

Q：システムサービスの 3Q（10-12 月期）受注高が減少（前年同期比▲17 億円）している要因と、売上総利益率が低下（同▲1.2pt）している要因を教えてほしい。

A：受注高については、BankVision の 11 行目獲得案件について、約 20 億円を 2Q に受注計上したが、残りの約 10 億円強の受注が 4Q にずれこんだこと等もあり、3Q はやや弱い状況となっている。受注環境に大きな変化が生じているわけではない。

売上総利益率についても、何か大きな変化があったわけではなく、システム開発においてはそれぞれの案件工程ごとに採算が異なることもあるため、全体のミックスの影響で前年同期比では利益率が低下している。

Q：モバイル決済ビジネスの進捗を教えてほしい。上期決算時に、下期はサーバ強化等の費用が発生する可能性があるとのことだったがその状況も教えてほしい。

A：モバイル決済については、中国系決済サービスの「Alipay®」を中心にサービスメニューを拡大している。現時点ではまだ実績に大きく貢献する規模にはなっていないが、ビジネスは順調に拡大しており、今後の収益貢献が期待できる分野である。また、バリューカードビジネスにおいて、サーバ費用等が若干増加しているが、従来から行っているものであり、業績に大きなインパクトを与えるような規模ではない。

【質問者 B】

Q：上期はソフトウェアでメインフレーム案件や顧客接点系案件の計上があり、収益に寄与していたが、3Q はどうだったのか。今後のソフトウェアの見通しを教えてほしい。

A：3Q は大型案件の計上はなかったものの、自社製のオープン系基幹システム向けソフトウェアの売上が前年同期比で 10 億円程度増加している。金融機関向けの顧客接点系ソフトウェアも引き続き堅調であり、今後もこの分野は安定的な収益貢献が期待できると考えている。

以上

（注）本資料で記述しております業績見通し等の予測数値は、現時点での入手可能な情報による判断および仮定に基づき算定しており、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、実際の業績は、本資料における見通しと大きく異なる可能性があることをご承知おきください。また、本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。